

新設特別支援学校の整備(案)について



滋賀のめざす特別支援学校

障害のある子どもの将来の**自立と社会参加**を見据え、一人ひとりの障害の状態等に応じた教育的ニーズに的確に応える指導・支援を提供し、充実した学びを得られる学校をめざす。

1. 新設校整備のこれまでの流れと基本的考え方

背景

・近年、野洲養護学校および草津養護学校の児童生徒数が増加し、大規模化が進む中、その解消に向けて**知肢併置の特別支援学校を1校、新設分離する**滋賀県立特別支援学校教育環境整備方針(令和6年3月)を策定。⇒令和6年9月県議会 守山市金森町地先に用地を選定

立地上の条件

- 草津養護、野洲養護両校区の真ん中(スクールバス乗車時間考慮)
- JR守山駅から約2kmの距離に位置(自主通学可能)
- 市民交流ゾーン等の施設、周辺環境の活用
- 近隣に市立、県立、私立の学校(小中高)
- 幹線道路沿いで特別支援学校が目にとまる

教育上の条件

- 一人ひとりの教育的ニーズに対応した学び
 - ➔ 集団活動や個別性の高い指導支援にも対応できる多彩なスペース
- 自立と社会参加に向け、『わくわく』する実践的な学び
 - ➔ 地域の方々と共に取り組む実践的な学習環境
- 安心・安全な学びの場
 - ➔ 校地内の車両動線を整理し、のびのびと活動できるゾーニング
- インクルーシブ教育システムの充実と共生社会の実現をめざす協働的な学び
 - ➔ 家庭・地域社会の誰もが学びに関わりながら子どもたちの成長を支える環境

2. 新設特別支援学校の場所とイメージ図



カフェスペース活用イメージ



出典 宮城県立秋保かがやき支援学校HP

主要な各施設の構造および規模 (単位:m)

施設	構造	階層	床面積
1 校舎・管理棟	RC	3F	7,400
2 体育館	RC	1F	918
3 プール	RC		666
4 運動場	-		5,400
5 農場	-		405
6 駐車場(職員送迎,SB)	-		6,357
・保護者等送迎30台,放デイ/医ケア児等送迎:30台			
・職員駐車場200台,SB:10台見込,乗客:12台			
合計			21,146

※ SB: スクールバス

校舎内の主要な部屋 (単位:m²)

部屋名称	項目	室数	面積
1 ホームルーム教室	小	22	924
2 //	中	18	756
3 //	高	19	798
4 多目的室	-	8	336
5 特別教室(自立活動室,プレイルーム含)			2,150
6 職員室(職員,事務室)			608
7 ランチルーム,厨房,配膳室			758
8 (新)カフェスペース			170
9 (新)玄関ホール			421
校舎棟の敷地全体の延床面積合計			16,348

・児童生徒数:300人程度を想定
・スクールバス、教職員等の車両駐車場を校地内に整備

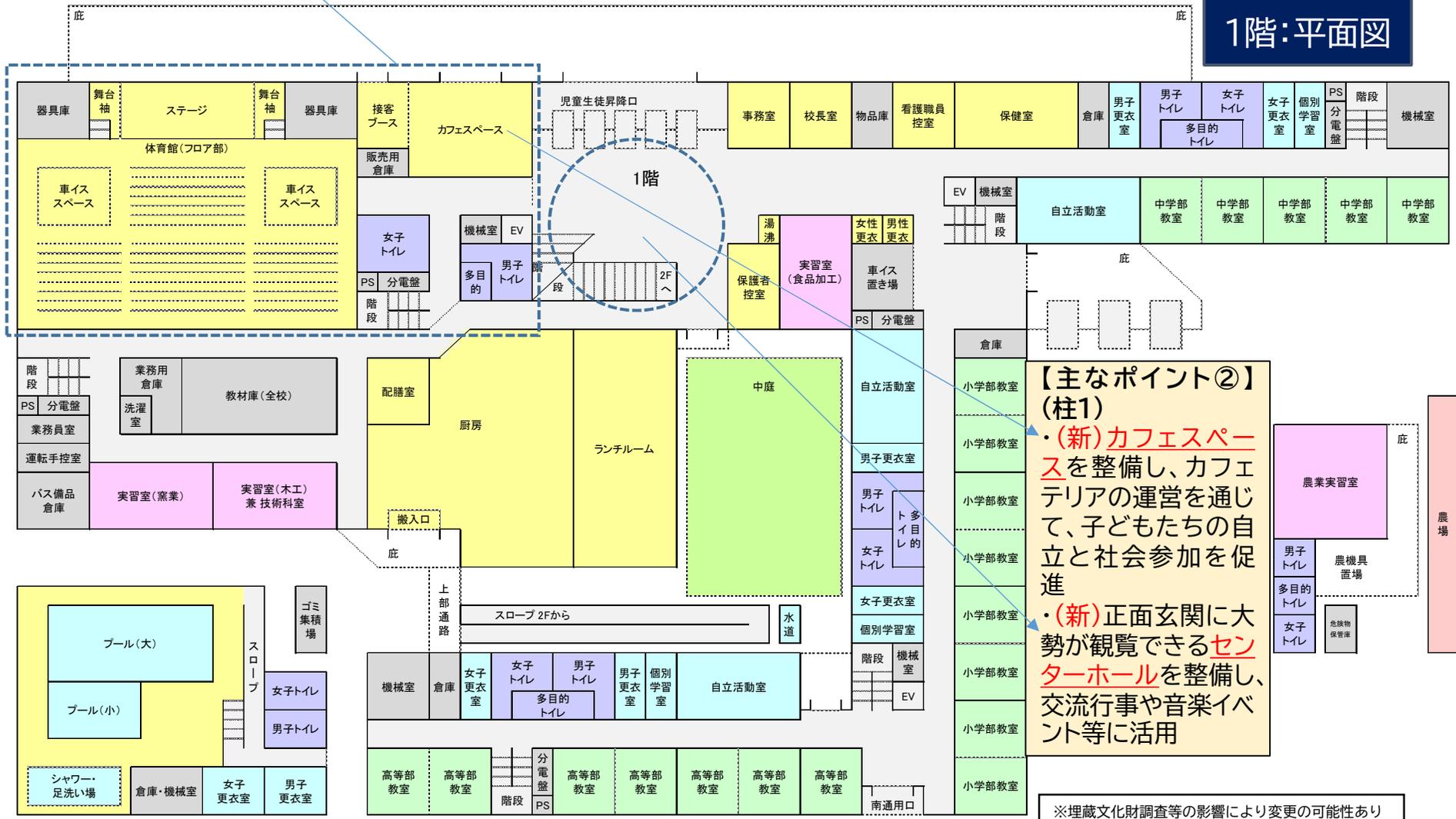


※埋蔵文化財調査等の影響により変更の可能性あり

【主なポイント①】（柱3）

- ・(新)避難所や地域行事等としての活用を見込み、**体育館を中心とするエリアを学校と扉で隔離**
- ・地域住民による農・食・手芸等の指導と交流の実施
- ・地域の小・中・高等学校との合同行事の開催や交流を実施

1階:平面図



【主なポイント②】（柱1）

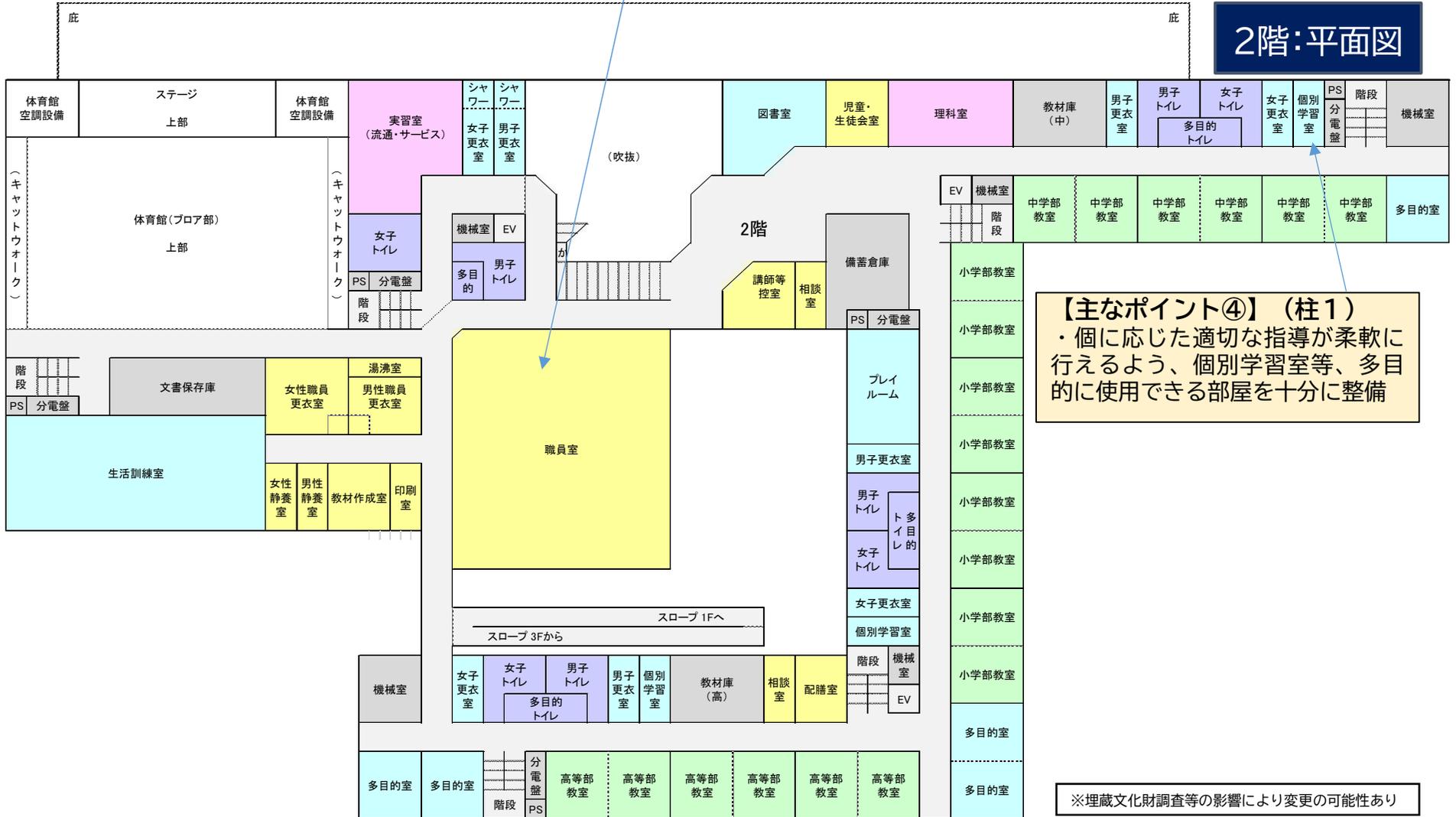
- ・(新)カフェスペースを整備し、カフェテリアの運営を通じて、子どもたちの自立と社会参加を促進
- ・(新)正面玄関に大勢が観覧できる**センターホール**を整備し、交流行事や音楽イベント等に活用

※埋蔵文化財調査等の影響により変更の可能性あり

【主なポイント③】（柱2）

- ・(新)教材や指導方法を研究、活用するための機能を有する職員室、会議室、相談室等を整備
- ・教職員が必要な教育情報に負担なくアクセスでき、すぐに活用するためのICT環境を整備
- ・特別支援教育のセンター的機能を十分に発揮できるよう、相談室を整備

2階:平面図



【主なポイント④】（柱1）
 ・個に応じた適切な指導が柔軟に行えるよう、個別学習室等、多目的に使用できる部屋を十分に整備

※埋蔵文化財調査等の影響により変更の可能性あり

